

令和6年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

小学校国語

○正答率の状況

	R 6	R 5
廿日市市	70.0	70.0
広島県	69.0	69.0
全国（公立）	67.7	67.2

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する。
＜設問2 一（2）＞ 88.4%
- 高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する。
＜設問2 一（1）＞ 82.5%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する。
＜設問1 二（2）＞ 48.8%
- 【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す。（きょうぎ）
＜設問2 三 ア＞ 49.9%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する。
＜設問1 二（2）＞ -5.3ポイント（廿日市市48.8%、広島県54.1%）
- 【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして適切なものを選択する。
＜設問3 二（2）＞ -2.2ポイント（廿日市市70.9%、広島県73.1%）
- オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する。
＜設問1 二（1）＞ -2.0ポイント（廿日市市75.8%、広島県77.8%）

正答率の状況から見取った課題

- ①全体的な傾向として、【評価の観点】思考・判断・表現、【学習指導要領の内容】「A話すこと・聞くこと」に課題がある。
- ②自分の考えが伝わるように、資料を活用するなどの表現を工夫することに課題がある。
問題文のオンラインのやりとりの内容から、実物を示しながら話した表現の工夫を捉えることができていない。＜設問1 二（2）＞

令和6年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

小学校算数

○正答率の状況

	R 6	R 5
廿日市市	63.0	64.0
広島県	64.0	64.0
全国（公立）	63.4	62.5

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。
＜設問 1（2）＞ 87.3%
- 作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ。
＜設問 3（1）＞ 86.4%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く。
＜設問 4（3）＞ 32.3%
- 直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。
＜設問 3（3）＞ 34.2%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- 3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く。
＜設問 4（2）＞ -4.9ポイント（廿日市市 64.3%、広島県 69.2%）
- 五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く。
＜設問 3（4）＞ -3.5ポイント（廿日市市 69.6%、広島県 73.1%）
- 直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。
＜設問 3（3）＞ -3.4ポイント（廿日市市 34.2%、広島県 37.6%）

正答率の状況から見取った課題

- ①全体的な傾向として、【評価の観点】思考・判断・表現、【学習指導要領の内容】「B図形」に課題がある。
- ②日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察することに課題がある。 ＜設問 4（2）＞
- ③立体図形について、図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、図形の構成の仕方や図形の性質について考察することに課題がある。 ＜設問 3（3）＞＜設問 3（4）＞

令和6年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

中学校国語

○正答率の状況

	R 6	R 5
廿日市市	60.0	72.0
広島県	58.0	70.0
全国（公立）	58.1	69.8

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する
＜設問 3 一＞ 82.7%
- 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する
＜設問 4 三＞ 79.4%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する
＜設問 1 三＞ 42.6%
- 本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する
＜設問 2 一＞ 36.3%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- 短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する
＜設問 4 一＞ ー2.1ポイント（廿日市市 51.4%、広島県 53.5%）
- 本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する。
＜設問 2 三＞ ー1.7ポイント（廿日市市 62.9%、広島県 64.6%）
- 物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する。
＜設問 3 二＞ ー1.0ポイント（廿日市市 50.5%、広島県 51.5%）

正答率の状況から見取った課題

＜全体的な傾向＞

評価の各観点、各問題形式とも、広島県及び全国平均を上回っており、大きな課題は見られない。

- ①「読むこと」に関する正答率は他の技能より低くなっている。文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することや目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。
- ②＜設問 1 三＞は正答率が低く、広島県及び全国平均を下回っている。意見と根拠など情報と情報の関係について理解すること（「情報の扱いに関する事項」）に課題がある。

令和6年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

中学校数学

○正答率の状況

	R 6	R 5
廿日市市	53.0	50.0
広島県	52.0	49.0
全国（公立）	52.5	51.0

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める。

＜設問 6（1）＞ 91.9%

- ストープの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ。

＜設問 8（1）＞ 85.8%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。

＜設問 8（2）＞ 18.1%

- 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する。

＜設問 9（1）＞ 23.7%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- 2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める。

＜設問 5＞ -4.9ポイント（廿日市市 66.3%、広島県 71.2%）

- 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する。

＜設問 9（1）＞ -1.3ポイント（廿日市市 23.7%、広島県 25.0%）

- 正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ。

＜設問 3＞ -0.7ポイント（廿日市市 66.5%、広島県 67.2%）

正答率の状況から見取った課題

- ①全体的な傾向として、【学習指導要領の領域】B 図形、【評価の観点】思考・判断・表現、【問題形式】記述式に課題がある。
- ②「見いだした事柄や事実」、「事柄を調べる方法や手順」、「事柄が成り立つ理由」等について、論理的に思考したり、数学的に表現することに課題がある。
＜設問 6（2）（3）、7（2）、8（2）、9（1）＞
- ③表、式、グラフ、図形等を見たときに、日常生活と数学をつなげて考えたり、数学的な見方・考え方を働かせながら、数学的に解釈し、数学的に表現する機会が少ないことに課題がある。

令和6年度全国学力・学習状況調査 質問紙における生徒の学習状況の概要

小学校児童質問紙

○ 肯定的回答（1当てはまる、2どちらかといえば、当てはまる）の割合（％）

設問	R 6	県平均	R 5 比増減
自分には、よいところがあると思いますか	87.7	85.1	+1.4
先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.9	90.8	+0.5
将来の夢や目標を持っていますか	82.8	82.8	+2.0
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	71.7	70.9	+0.5
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.6	96.4	-0.9
人が困っているときは、進んで助けていますか	90.1	93.1	+0.2
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.3	97.4	-0.2
友達関係に満足していますか	92.6	92.1	+0.6
学校に行くのは楽しいと思いますか	86.4	85.1	+1.1
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	85.7	84.9	+9.6

回答の状況から見える成果と課題

成果

- ① 自己肯定感や有用感に関わる項目や、学校満足度に関する項目について、肯定的回答の割合が昨年度よりも増加している。
- ② 先生方は児童のよいところを積極的に認めており、児童もそのことを肯定的に受け止めている傾向が継続しており、そのことが自己肯定感の向上にもつながっていると考えられる。
- ③ 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の項目について、昨年度との比較において9.6ポイント増加している。

課題

- ① 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目が昨年度との比較において0.2ポイント減少している。
- ② 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目が昨年度との比較において0.9ポイント減少している。

小中共通の課題解決に向けて

○ 「貢献」に重点を置いたつながり支援プロジェクトのさらなる推進

本市において平成26年度から取り組んだきた「つながり支援プロジェクト」は「存在感」、「承認」、「貢献」をキーワードに、子ども同士のかかわりを意図的に設定し、認め合える集団づくりを通して、子どもの自己有用感を高めることによっていじめ等の問題行動の未然防止を図り、学ぶ意欲を高める取組である。

近年の同調査において「存在感」、「承認」については成果が感じられる数値となっている。また、今年度数値が大きく増加している「地域や社会をよくしたい」という意欲を地域と連携した取組につなげる等、実際に「役に立った」という実感を持たせる機会の確保に取り組む必要がある。

令和6年度全国学力・学習状況調査 質問紙における生徒の学習状況の概要

中学校生徒質問紙

○ 肯定的回答（1当てはまる、2どちらかといえば、当てはまる）の割合（％）

設問	R 6	県平均	R 5比増減
自分には、よいところがあると思いますか	85.7	84.5	+2.7
先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.5	90.0	+1.4
将来の夢や目標を持っていますか	65.5	67.9	-3.2
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	70.3	71.9	+3.7
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.0	95.5	+0.1
人が困っているときは、進んで助けていますか	87.5	89.7	+0.1
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.1	96.3	+0.7
友達関係に満足していますか	90.0	90.9	+2.7
学校に行くのは楽しいと思いますか	83.4	83.2	+1.5
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	80.1	75.2	+10.5

回答の状況から見える成果と課題

成果

- ① 自己肯定感や有用感に関わる項目や、学校満足度に関する項目について、肯定的回答の割合が昨年度よりも増加している。
- ② 先生方は生徒のよいところを積極的に認めており、生徒もそのことを肯定的に受け止めている傾向が継続しており、そのことが自己肯定感の向上にもつながっていると考えられる。
- ③ 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の項目について、昨年度との比較において10.5ポイント増加している。

課題

- ① 「将来の夢や目標を持っていますか」の項目が昨年度との比較において3.2ポイント減少している。

小中共通の課題解決に向けて

○ 「貢献」に重点を置いたつながり支援プロジェクトのさらなる推進

本市において平成26年度から取り組んだきた「つながり支援プロジェクト」は「存在感」、「承認」、「貢献」をキーワードに、子ども同士のかかわりを意図的に設定し、認め合える集団づくりを通して、子どもの自己有用感を高めることによっていじめ等の問題行動の未然防止を図り、学ぶ意欲を高める取組である。

近年の同調査において「存在感」、「承認」については成果が感じられる数値となっている。また、今年度数値が大きく増加している「地域や社会をよくしたい」という意欲を地域と連携した取組につなげる等、実際に「役に立った」という実感を持たせる機会の確保に取り組む必要がある。地域や社会とのつながりが夢や目標につながるよう留意したい。

令和6年度全国学力・学習状況調査 における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

ウェルビーイング

＜クロス集計＞〔普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか－友達関係に満足しています〕

廿日市市立小学校		普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか（人）				
		よくある	ときどきある	あまりない	全くない	総計
友達関係に満足しています（人）	当てはまる	404 (40.2%)	221 (22.0%)	13 (1.3%)	0 (0.0%)	638 (63.4%)
	どちらかといえば、当てはまる	111 (11.0%)	152 (15.1%)	27 (2.7%)	4 (0.4%)	294 (29.2%)
	どちらかといえば、当てはまらない	14 (1.4%)	28 (2.8%)	9 (0.9%)	3 (0.3%)	54 (5.4%)
	当てはまらない	4 (0.4%)	7 (0.7%)	7 (0.7%)	2 (0.2%)	20 (2.0%)
	総計	553 (55.0%)	408 (40.6%)	56 (5.6%)	9 (0.9%)	1,006

廿日市市立中学校		普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか（人）				
		よくある	ときどきある	あまりない	全くない	総計
友達関係に満足しています（人）	当てはまる	289 (32.1%)	171 (19.0%)	17 (1.9%)	4 (0.4%)	482 (53.6%)
	どちらかといえば、当てはまる	78 (8.7%)	193 (21.5%)	53 (5.9%)	1 (0.1%)	327 (36.4%)
	どちらかといえば、当てはまらない	8 (0.9%)	38 (4.2%)	14 (1.6%)	1 (0.1%)	61 (6.8%)
	当てはまらない	2 (0.2%)	10 (1.1%)	7 (0.8%)	2 (0.2%)	21 (2.3%)
	総計	378 (42.0%)	414 (46.1%)	92 (10.2%)	8 (0.9%)	899

児童生徒の回答状況から見取った成果と課題

○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」、「友達関係に満足しています」の質問に対して、どちらも肯定的に回答した児童は、88.3%、生徒は、81.3%であった。80%以上の児童生徒が心理的安全性が高い環境と人間関係の中で生活を送ることができており、これまでの各学校、各学年・学級でのウェルビーイングを築く取組の成果が出ているのではないかと考えられる。

○一方、両方の質問に否定的に回答している児童は、2.1%、生徒は、2.7%であった。ウェルビーイングに関わる質問と各教科の平均正答率に相関関係は見られないからこそ、引き続き、児童生徒の様子等に注視し、個別の状況を把握していくことで早期対応を行い、いじめや不登校の未然防止に資する必要がある。